

仮設に根付く

仮設住宅を巡回していると、玄関の前で、植木鉢の土を掘り返しているおばあさんがおられた。お尋ねすると、津波で流された自宅の脇に生えていた彼岸花の球根だという。それを仮設住宅に持ち帰って、植えているところなのだそうだ。

ある男性は、仮設住宅の自分の居室前に植えたひまわりを見ながら、仮設に暮らしてみると、そこには暮らしたなりの楽しみがあるのだと話してくれた。

「仮設にいと見知った顔がいるから、部屋を開け放していても安心」「仮設に帰ってくると、ほっとする」そんな声も耳にするようになった。仮設住宅が、少しずつその人の居場所になってきているようである。



最近では、「ここが仮設じゃなかったらいいのに」という声も聞くようになった。その声には、自分の居場所を、いつまでも「仮設」のままにしておきたくないという、そんな響

きが込められているように感じた。

震災から間もなく2年。仮設住宅に根付いていく草花と、仮設に住む方の姿がどこか重なって見えた。

(安部智海)